

第 2 回 (10/1) 論理トレーニング

1. 連絡・報告

教室変更の件 10-11 へ

2. BBS 投稿から

「自ら考え行動することが大切だと思った。視野を広げて、社会問題や若者文化に関する話題を普段から積極的に取り入れるようにしていき、授業に役立てたいと思う。」

「自分から行動する事の重要性を再確認した。確かに確定申告の仕方は授業でも教わらないし、店長も教えてくれないから自分からやりに行かなければいけない。誰かがやってくれるという考え方を捨てる事で自分のスキルが上がるのだと感じた。」

「大学の 4 年間で・自分から動く・自分で決める・コミュニケーションのスキルが重要だということを改めて聞いて、今までの自分を顧み、そのように動いて無かったことを反省した。あと 2 年ほどしかないが、これからは積極的に自分から動こうと思った。」

「実社会では学生時代のような同年代の友達ではない様々な年代の人達と協働、自分で判断や行動をしなければならない。そしてこの授業では毎回別の人とディスカッションを行う。同年代ではあるが選べない関係性という点では実社会に少し近い形ではないかと思う。大学生の間にこのような機会を通じ様々な人と話し慣れていくことでコミュニケーションスキルを高め将来に生かせるようにしたい。」

「実社会では自分から動き決めなければいけなく意見を求められることもある。この授業では毎回ディスカッションを違うメンバーで行うので学生のうちにその力を身につけたいと思う。」

「改めて自分から行動することがどれだけ大事なのか学ぶことができた。そして私はこの講義を通して、社会に出た時に困らないためにも自分自身が苦手としているコミュニケーションスキルを身につけていきたいと思った。」

「私はディスカッションが大の苦手で、そもそも人とコミュニケーションをとることがあまり得意ではない。この授業は毎回ディスカッションがあるので、少しでも初対面の人と話す抵抗を和らいでいけたらいいと思う。」

「この授業では、初めての人とグループになり、ディスカッションをする機会が多くあることが分かった。2 年に限って言えば、必修のため、人間関係の人しかいない。来年の専門ゼミで一緒になる可能性のある人と話せる機会は多くはないので、より良い関係性を築いていけたらと考えている。一方で、あまり会話したことのない人同士でディスカッションをするのは、不安もある。しかし、この苦手意識を少しでも克服することは社会人になる準備に必要なことなので、頑張ろうと思った。」

「自分で何かを決めて行動することよりも、誰かに決めてもらったことをする方が楽だと感じた。しかし今後社会に出たときに「これをしなさい」とは言われず、自分で考えて行動する場面が多くあると思う。そこで、グループディスカッションを通してコミュニケーション力を高めて自分に自信をつけ、人に何かを言われてからではなく自分で選択が出来るようになりたいと感じた。」

「失敗を恐れて自分から行動することがなかなかできなかったが、自分から行動することは実社会では必要なことであって、それを当たり前にするためにこの授業でのディスカッションでは積極的に発言したい。」

「…様々な意見を聞くことは、考えを深めることができると感じた。」

「学生は最初の一步を踏み出すべきってことが自由じゃない、大人の理想という学生さんの意見を聞いてすごく共感した。自分のグループではそんな意見はでなかったの、人によって考え方の違いが出るのは面白いと思ったし、いろんな人の意見を聞くことは大事だと改めて思った。」

「…最初の一步が踏み出せないのは何故かというディスカッションは、苦手意識の根源にあるものは何なのかについて考えるきっかけになった。自身の場合、初めから完璧にこなす前提で物事に取り組もうとしてしまうため、その高いハードルに対する緊張感、失敗によって乗り越えられなくなる恐怖心から苦手意識が生まれるのではないだろうか。そして、それをなくすには理想を高く設置しすぎない。そうすることで挑戦しやすくなるのではという解決策をディスカッションによって生み出すことができた。」

「…新しい1歩を踏み出すのは最初こそ難しく感じるが、これからより良い大学生活を送るため、また、就職してからも新しい1歩を踏み出すことはとても大事なことで、それを躊躇ってはいけないなと感じた。」

「新しい一步を踏み出すのは大切だと思う。しかし失敗するかもという不安から、なかなか踏み出せないの、大学生活の中で少しずつでも苦手意識を変えていきたいと改めて思った。」

「はじめの一步を踏み出すことについて考え、できない理由の自信がないという意見はとても共感することができた。私自身なにかに新しく挑戦しようとする時、頑張っていない自分のことを思い出して不安になったり、失敗したらと考えるからだ…。」

「誰かに指示を出されて動く方が自分から考えて動くよりも楽であるし何かあった際に責任を一人で負わずにすむためつい誰かからの指示を待ってから動いてしまうが、社会に出てからはすべてを人が教えてくれるわけではないのでこれから先自分で考え動くこともより重要なのだと思った。」

「今回の授業では、先生からの「自由よりも人に決められた事をやる方が良いか？」という問いに賛成する人が多かった事が印象的でした。その理由としては自分の頭で考えなくて良いから、失敗しても人のせいにできる・責任をとらなくて良いからではないかと思います。現代社会、特にネットでは一度失敗した人を酷く叩く傾向があるので、「失敗が怖い」「一度も失敗できない」という意識が刷り込まれているのではないのでしょうか。」

「…今回授業で取り扱った、人に決められたことをその通りにやるだけか自由にやるかのどちらがいいかという議題に対して、私は優柔不断だし考えるのが面倒なので決められたことをその通りにやる方が楽だと考えた。そして、初めての環境やことになかなか踏み出せないことに対しては、やはり不安があるし受け入れてもらえなかったらどうしようというマイナス思考な考え方になってしまうからではないかと考えた。大学四年間で初めてのことに挑戦することは、自分を成長させる特別な経験になるかもしれないが、ある程度の強い気持ちと行動力がないとなかなか難しいことではないかと思った。」

「一步踏み出せない理由について、私が考えたのは、めんどくさいからだということだ。踏み出すことには勇気や頑張ろうという意気込み等が必要だったりする。ただ、踏み出さなければそんな苦勞をする必要はない。人間楽な方へ逃げてしまっているのだろうと考えた。しかし、この考えを持ちつつも何か踏み出し、それが成功でも成功でなかったとしてもそのあとに得られるものがあり、人間として成長することができると私は思っている…。」

ほか多数

過去の投稿から

「…グループディスカッションを通し、私たちは興味があるからこそ行動にうつすことができるけれど、興味がないことには行動にうつすことができず、意欲があまり無いということを改めて気付かされた気がした。」

3. プロローグ —— 「論理トレーニング」の目的

「論理」とは何だろうか。

ひとことで言えば、「論理」とは、言葉が相互にもっている関連性にほかならない。しかし、そのことの説明を続ける前に、まずは論理に対するひとつの一般的な誤解を解いておこう。

一般に、論理力というのはすなわち思考力だと思われているのではないだろうか。「論理的思考力」とか「ロジカル・シンキング」といった言葉がよく聞かれるように、論理とは思考に関わる力だと思われがちである。だが、そこには誤解がある。論理的な作業が思考をうまく進めるのに役立つというのはたしかだが、論理力は思考力そのものではない。

思考は、けっきょくのところ最後は「閃き」(飛躍)に行き着く。そのために、グループで自由にアイデアを出し合う、いわゆるブレイン・ストーミングなどを行ったりもする。そしてブレイン・ストーミングなどでは、論理的に一貫した発言をすることよりも、可能なかぎり自由に発想していくことの方が有効なものとなる。思考の本質はむしろ飛躍と自由にあり、そしてそれは論理の役目ではない。

論理は、むしろ閃きを得たあとに必要となる。閃きによって得た結論を、誰にでも納得できるように、そしてもはや閃きを必要としないような、できるかぎり飛躍のない形で、再構成しなければならない。なぜそのような結論に到達したのか。それをまだその結論に到達していない人に向かって説明しなければならないのである。

ここで重要なのは、あなたがその結論に到達した実際の筋道ではない。実際の思考の筋道は、すでに述べたように、最終的な閃きに至った紆余曲折のある道だろう。苦労話をするというのでもないかぎり、それをそのままアピールしても意味はない。どういう前提から、どういう理由で、どのような結論が導けるのか。そしてそれ以外の結論はどうして導けそうにないのか。そうしたことを、論理的に再構成して説明するのである。

〔中略〕繰り返そう。思考の筋道をそのまま表わすのではない。思考の結果を、できるかぎり一貫した、飛躍の少ない、理解しやすい形で表現する。そこに、論理が働く。

さらに、そのように表現されたものをきちんと読み解かねばならない。その結論はどのような根拠から導かれているのか。その根拠は結論を導くのに十分強いものであるのか。あるいは、議論全体の方向や筋道はどうなっているのか。そうしたことを的確に読み取り、理解し、また評価する。それもまた、論理である。

それゆえ、論理力とは、思考力のような新しいものを生み出す力ではなく、考えをきちんと伝える力であり、伝えられたものをきちんと受け取る力にほかならない。つまり、論理力とはコミュニケーションのための技術、それゆえ言語的能力のひとつであり、「読み書き」の力なのである。(野矢 2006: 1-2、下線榎本)

「議論」についてのポイント

① 議論＝

② 議論＝

•

③ 議論＝

4. 練習問題

5. 引用・参考文献

野矢茂樹、2006、『新版 論理トレーニング』産業図書
——、2001、『論理トレーニング』産業図書
バーバラ・ミント、山崎康司訳、1999、『新版 考える技術・書く技術』ダイヤモンド社
——、山崎訳、2006、『考える技術・書く技術 ワークブック 上』ダイヤモンド社
——、山崎訳、2006、『考える技術・書く技術 ワークブック 下』ダイヤモンド社
MSN 産経ニュース「原発ゼロで光熱費月 3 万円超」
(<http://sankei.jp.msn.com/life/news/120903/trd12090322200017-n1.htm>, 2012/09/04)

6. 次回の予告

10 月 8 日 規範・道徳・公共性

以上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9021.teacup.com/tenomoto4/bbs>

「議論」についてのポイント

① 議論＝

× 相手に言い返すこと、言葉による攻撃・仕返し

② 議論＝

× どちらの主張が勝つか負けるか

「議論」についてのポイント

「自分の“感情”と闘う」

- 感情ではなく論理。感情的になったらオワリ
 - 「なぜそういう感情が湧いてくるのか」と、自分のロジック(論理)を冷静に分析
-

「議論」についてのポイント

③ 議論＝

「なぜそういえるのか(そう思うのか)」と、自分の主張の「**根拠**」をさぐる

(相手の主張の根拠を確かめる、正しく理解する)

「自分の“感情”と闘う」ということの意味

□ はじめに結論ありき

- 「それはイヤだ！」
- 「言い方が気に食わない」
- 「もともとこの人キライ！」
- 感情、利害(損得)...



□ 後付けの根拠

「後付けの根拠」からの脱却

□ 後付けの根拠

■ 結論 → 根拠



■ 「...？」(仮の結論、相手の主張) → 根拠 → 結論

「自分の“感情”と闘う」ということの意味

- 嫌いな相手でも正しい(適切な)ことを言うこともある
 - 冷静にきちんと耳を傾ける
 - 理にかなっていることには賛成する

 - 仲のいい相手、信頼している相手でも間違っ
たこと(誤認・誤解)を言うこともある
 - 鵜呑みにしない
 - 誤認・誤解に対しては批判・反対する
-

「議論」の目的

- × 相手に言い返すこと
 - × どちらの主張が勝つか負けるか

 - 理解が深まること
 - 今まで気付かなかったことに気付くこと
(相手と自分の双方にとって) cf. 共同作業
-

論理トレーニング 目的・ねらい

□ 「右か左か」「敵か味方か」



□ **多角的・複眼的**にものを見る力
